

- 01 [静岡景観] 万葉のふるさと花沢の里
- 03 [知事対談] 静岡の未来 スポーツの明日
- 07 [ふじのくにの地域外交] 大いなる可能性の国 モンゴルとの交流
- 09 [次代を拓く] 株式会社トライ・カンパニー
- 10 [花の都しずおか] クルクマ
- 11 [県政特集] 開港5周年 富士山静岡空港の未来を展望する
- 13 [アルカディア探訪] 殿(藤枝市)
- 14 [静岡の食] 静岡伊豆の大富マンゴー
- 15 [旬のひと] 女優 広瀬アリスさん

◎表紙の写真

空から見る世界遺産「富士山」



開港5周年を迎えた富士山静岡空港。「ふじのくに」静岡県の「空の玄関口」として国内外との交流をさらに加速させるための重要な役割を果たすことが求められている。空から眺める「世界遺産」富士山もまた美しい。

静岡景観

万葉のふるさと花沢の里(焼津市)



国が選定した静岡県初の「重要伝統的建造物群保存地区」

山の中腹にある道から花沢の里を眼下に眺める。遠くに焼津の市街地や駿河湾も見ることができる。



元禄16年に建立されたと伝わる法華寺の仁王門。本堂には県指定文化財の「木造聖観音立像」がある。



花沢の里から日本坂、満願峰、静岡市へ至る山道は人気のハイキングコースにもなっている。

花沢の里
静岡県焼津市花沢
お問い合わせ:焼津市歴史民俗資料館 電話:054-629-6847
🚗 焼津駅から車で約10分 🚶 花沢の里観光駐車場から徒歩約15分
無料駐車場あり(花沢の里観光駐車場)



蛇行する小径で出会う
ドラマチックな時間旅行

花沢の里は、焼津市北方の山間部、奈良時代の東海道と呼ばれる「やきつべの小径」に寄り添うようにたたずむ小さな山村集落だ。小径は万葉集に「やきつべに 我行きしかば 駿河なる 阿部の市道に 逢いし児らはも」と詠まれ、間近には日本武尊(やまとたけるのみこと)にちなんで名付けられた日本坂峠も迫るなど、界隈は濃密な歴史の気配を感じさせる。

集落の家並みは、花沢川に沿って蛇行する小径に連なる。江戸時代から明治、大正、昭和を生き延びた古い民家群が、緩やかなカーブを曲がることに次々と現れる光景は、訪れる者にドラマチックな時間旅行を思わせる。かつて農作物の貯蔵庫や季節労働者の宿泊場などに利用された附属屋が、苔むした石垣の上にたたずむ様子も深い郷愁を誘う景観だ。

花沢の里は、国道150号の日本坂トンネルからほど近いエリアにあり、古民家群は、南北方向に約500メートル、東西方向に約50メートルという細長い谷間に建ち並ぶ。隠れ里のようにも見えるが、集落が面する山道は、昭和20年代まで静岡と焼津を結ぶ街道として、行き交う人も多かったという。古くから「花沢33軒」という言葉があるこの地区。現在は、27世帯がこの豊かな自然と歴史ある町並みの中で暮らしている。

集落の歴史と文化を語る
附属屋と石垣の町並み

花沢の里は、明治時代以降、茶栽培や養蚕で栄えた。昭和の初期から中期にかけてはミカン栽培で潤い、「花沢に嫁げば一生安泰」と言われるほど、集落全体が活気に満ちていたという。そんな栄華を小径に沿って続く附属屋と堅牢な石垣が物語る。日本坂峠へ通じる山道の入口付近にある、1695(元禄8)年に建立されたと伝えられる法華寺の重厚な趣も、この集落の持つ歴史を感じさせる。

今年、花沢の里は、静岡県で初めて国による「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。歴史と文化に彩られた町並みと豊かな自然が織り成す美しい景観は、静岡県が誇る日本の貴重な財産だ。